

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2024年6月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2024年6月7日～6月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 133社
- 回収率 66.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の6月の状況を見ると業況DIは、前月より13.1ポイント悪化の▲35.3となった。

2017年9月以来82ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲25.6、当月と比べ9.7ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2024年7月～ 2024年9月
業況	▲20.3	▲24.4	▲22.0	▲22.3	▲22.2	▲35.3	▲25.6
売上	▲5.3	▲14.7	▲13.3	▲18.0	▲25.7	▲19.6	▲10.5
採算	▲21.1	▲25.2	▲24.5	▲18.0	▲25.7	▲35.4	▲28.5
仕入単価	▲57.9	▲59.4	▲63.8	▲64.7	▲65.0	▲64.6	▲54.8
販売単価	27.0	25.2	25.2	35.2	26.4	36.0	22.6
従業員	33.0	30.0	37.0	38.9	35.0	35.3	36.1
資金繰り	▲12.0	▲13.8	▲11.0	▲12.3	▲12.2	▲17.3	▲18.1

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2024年7月～ 2024年9月
建設	▲31.0	▲36.7	▲11.6	▲33.3	▲25.8	▲50.0	▲35.8
製造	▲15.6	▲32.3	▲25.0	▲27.8	▲25.7	▲42.4	▲27.2
卸売	▲17.3	▲16.6	▲7.7	▲3.3	▲3.3	▲17.3	▲10.3
小売	▲27.3	▲21.0	▲30.0	▲25.0	▲30.0	▲38.1	▲14.2
サービス	▲9.5	▲5.2	▲39.1	▲21.7	▲29.2	▲27.3	▲40.9

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働上限規制に伴い、発注者側の工期の設定及び労務費の増加の考慮が必要(特に民間発注)。物価高騰による資材・住宅機器の値上がりにより一般住宅建築の建築単価高騰のため建築需要の低迷が懸念される。(総合工事) ・工事は昨年と同期と比べて戸建てを中心に減少しており向こう3カ月も期待はできない。6月に始まる定額減税は好感できるものの、電気・ガスの補助金に代表されるように政府の政策に迷走感は否めず、実質賃金も25か月連続でマイナスとなっている。また、日銀の国債買入れも縮小させる方向にあり、その結果、金利が上昇すると住宅購入や企業の設備投資に影響が出ると考えられる。このような状況では、好転材料を探すのに苦慮する。(設備・その他) ・建設業界は、労務費・資材等のコスト高、金利上昇などによる住宅取得費用の高まりに加え、世帯数の増勢鈍化などで住宅需要が押し下げられるなど、住宅投資は力強さを欠いた推移が続くことが予想され業況は厳しいものと思われる。(建築業)
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物の生育は、若干遅れはあるものの順調に推移。ただ、原材料の値上げによっては資金繰りに影響あるかも知れない。(食料品) ・モノ消費からコト消費への移行で製品売上の減少が顕著に表れている。6月のデザインウィーク等のイベントで新作発表を通じて下半期の売上に繋がるPRを進めたい。(家具・木材) ・客先も含め受注競争が激しく予定物件も外れてきている。また、新人が入り人手不足感が無くなった。(金属窯業他) ・従業員の高齢化。(金属窯業他)
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・4月より人件費のベースアップを行い経費増と予想していたが離職者もあり、販管費自体の大きな増加はなかった。売上高は4～5月は10%以上の伸長をしていたが6月は一転して不調となる。大手量販店の売上不振と飲食店向けを中心とする納品業者の業容が悪く弊社からの食材仕入れが少なくなっている。3・6街を中心とした繁華街で人影がまばらな状態が続くとこの不況感は長引く可能性があると感じる。(飲食料品) ・前年度と同程度程度の業況である。経費等のコストは緩やかに上昇し続けている感があり、価格転嫁はできているが販売数量は横ばいで販売数量の増加が課題である。(機械鋼材) ・当社の主たる顧客である営農者は毎年この時期になると、作付け品目の違いがあるも総じて閑散期になることから当月の売上は前月と比較し小幅に落ち込む。前年同期と比べた場合については底打ち感もみられ、年後半に向けて業況は徐々に引き締まっていくものと思われる。(その他)
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に入り気温も上がり夏物商品がそろそろ動く季節になるが、来店客が少なく売上も苦戦している。後半になるとサマーセールに入る。大変厳しく集客する手段がない。(衣服身回品) ・売上増・右肩上がりもそろそろ限界。今期も原料の大幅値上げ傾向で減収覚悟の商品値上を実施。今後どこまで原料中心とした値上げが続くのか心配。今期は減収減益覚悟であるが、次年度以降については利益確保も厳しくなる可能性があり、現状の製造・販売体制の転換が必要となるかもしれない。(食料品) ・円安の影響により外国人の買い付けが多く、オークション相場が上がり仕入れ価格が上昇している。仕入れが高いため、在庫を増やすことが厳しい状況である。(自動車)
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足。値上げによる売上増加。従業員を守るための内部固めが必要。(理美容・クリーニング) ・原材料・エネルギー価格・労務費等のコスト増。(ホテル・旅館) ・人手不足から営業時間の短縮等で売上が減少。テイクアウト・配達は伸びてきている。人員不足が変わらず問題点で厳しい状況。(飲食) ・民間工事はインバウンド増加による別荘地等の開発計画が増加している。公共工事は昨年度並みの売上を予測。(その他) ・足元の業況は徐々に好転機運であるが、人的不足は大きく響いている。夏期のイベント等で人流が回復してきていることは好材料も、資金面での厳しさは当面続く。(運送)

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI20.3 ポイント悪化、採算 DI21.4 ポイント悪化、仕入単価 DI6.9 ポイント悪化、販売単価 DI3.1 ポイント改善、資金 DI4.7 ポイント悪化、従業員 DI2.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 24.2 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事 27 ポイント、設備・その他 14 ポイント、建築業 29 ポイント悪化となった。従業員・職人不足により、工期延長・着工の遅れの問題ありとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI3.7 ポイント改善、採算 DI5.5 ポイント悪化、仕入単価 DI15.8 ポイント悪化、販売単価 DI28.1 ポイント改善、資金 DI6.9 ポイント悪化、従業員 DI0.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 16.7 ポイント悪化となった。業種別では、印刷・出版 7 ポイント改善、食料品 25 ポイント、家具・木材 16 ポイント、金属窯業他 24 ポイント悪化となった。売上は前年が頭打ちとなり減少傾向にある。それに伴い、原価・人件費の上昇分を吸収できなくなりつつある。人手不足により時短営業も為すことができないとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI6.5 ポイント改善、採算 DI10.3 ポイント悪化、仕入単価 DI11.8 ポイント改善、販売単価 DI11.5 ポイント改善、資金 DI3.5 ポイント悪化、従業員 DI9.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 14.0 ポイント悪化となった。業種別では、その他横ばい、繊維・衣服等 53 ポイント、食料品 4 ポイント、機械鋼材 11 ポイント悪化となった。灯油の仕入値は小幅に上下を繰り返しているが、販売価格は現行価格のまましばらく続くと思われるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI25.5 ポイント改善、採算 DI7.9 ポイント悪化、仕入単価 DI13.6 ポイント改善、販売単価 DI1.7 ポイント悪化、資金 DI0.7 ポイント改善、従業員 DI12.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 8.1 ポイント悪化となった。業種別では、自動車 20 ポイント改善、衣料品横ばい、食料品 33 ポイント、その他 14 ポイント悪化となった。大型店を中心に客数は前年並。相場高の青果物は単価上昇により点数減少しているものの、値上げにより単価高のグロサリー全般は点数伸長。売上に貢献しているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI25.0 ポイント改善、採算 DI1.9 ポイント悪化、仕入単価 DI7.6 ポイント改善、販売単価 DI2.2 ポイント悪化、資金 DI11.4 ポイント悪化、従業員 DI0.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 1.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別ではその他 35 ポイント、整備業 100 ポイント、運送 10 ポイント悪化、理美容・クリーニング 100 ポイント、ホテル・旅館 70 ポイント、飲食 25 ポイント改善となった。人手不足。値上げによる売上増加。従業員を守るための内部固めが必要との声も寄せられている。</p>